



Case Study 静岡市役所

税金の支払いをもっと簡単に! クレジット収納が拓く新しい可能性

送られてくる納付書に基づき、銀行やコンビニなどで手続きをする必要がある各種税金の納付。これをもっと手軽に行えればと感じる人は少なくないだろう。静岡県静岡市は、こうした住民の要望に応えるため、各種税金をクレジットカードで支払える仕組みを導入。その際の仕組みに、NTTデータの「モバイルレジ」および「モバイルレジクレジットサービス」を採用している。



ネット通販の一般化などにより 公金でも「カード払い」の需要が増加

北は南アルプス、南は駿河湾を望む恵まれた自然環境の中で、県の中枢都市として発展を続けてきた静岡市。お茶、桜えびといった特産物や、プラスチックモデルなどの地場産業で全国に知られる。また、最近は持続可能な世界の実現を目指して国連が採択した「SDGs (Sustainable Development Goals)」の取り組みを積極的に展開。政府により、SDGs達成に向けて優れた施策を実践する「SDGs未来都市」にも選ばれている（※）。

様々なミッションを持つ地方公共団体だが、中でも重要なものの1つが住民サービスの向上である。特に地方税、国民健康保険料といった公金収納の利便性向上については、「コンビニ収納」の仕組みの整備をはじめとする取り組みが十数年前から行われてきており、現在も全国の地方公共団体がそれに施策を検討・実施しているという。

「静岡市も、公金収納の利便性向上

に早くから取り組んできましたが、近年は新たなニーズの高まりを感じています」と語るのは、静岡市役所の永島 幸夫氏だ。インターネット通販などが広く一般化した結果、手軽な「クレジットカード」を主要な支払方法として選択する人が増加。それに伴い、公金もクレジットカードで支払いたいという要望が増えているという。

コンビニ収納の仕組みを生かし 簡単・迅速に導入できる

そこで静岡市は、この要望に応えるため新たな仕組みを導入。NTTデータの公金収納サービス「モバイルレジ」および「モバイルレジクレジットサービス」を採用することで、各種税金をクレジットカードで支払える仕組みを実現した。具体的には、納税者は専用のスマートフォンアプリをダウンロードし、地方公共団体から送付されてきた納付書のバーコードを撮影するだけで、手持ちのクレジットカードでの支払いが行えるというものである。

最大のポイントになったのは、仕組



静岡市役所
財政局 税務部 納税課 納税推進係 主査
えいしま ゆきお
永島 幸夫 氏

みを利用する納税者、および導入する静岡市側の「負担の少なさ」だ。

「そもそも支払方法の追加によって、納税者の手続きが煩雑化したのではなく転倒です。その点モバイルレジは、かねて静岡市が利用してきたNTTデータのコンビニ収納代行サービスのオプション機能として提供されるもの。既存の納付書を変更することなく、以前から可能だったコンビニ／金融機関での支払いにクレジットカード払いを追加できるため、納税者の混乱を招かず、選択肢を増やすると考えました」

（永島氏）。スマートフォンアプリは操作が簡単で使いやすく、これなら抵抗なく使ってもらえると感じたという。

また、静岡市にとっても、納付書を作り替えたり、バックエンドのシステムを改修したりする手間がほぼ不要なため、コストや労力を抑えて導入できるメリットがあった、と永島氏は強調する。

地方公共団体にとって、コンビニ収納の仕組みを支えてきたNTTデータが提供元であることで、質の高い住民サービスを安定的に運用していくといえるだろう。

利用者の伸び率は想定以上 納付期限内の収納率向上に期待

静岡市は、検討開始から約半年というスピードで、2018年4月にモバイルレジを活用した税金収納をスタート。現在は個人住民税（普通徴収）、固定資産税・都市計画税、軽自動車税でクレジットカードでの支払いが可能となっている。

納税者は、役所や金融機関、コンビニへ出向くことなく、手持ちのスマートフォンを使っていつでも、どこからでも税金を納付できるようになった。運用開始から数ヶ月を経て、サービス利用者の伸び率は、静岡市の当初の想定を大きく上回るものとなっているそうだ。

「スマホで完結できる手軽さに加え、手元に現金がなくても納付できることや、カード会社のポイントが付与されるといったメリットも、利用者拡大に

※2018年6月15日に内閣府地方創生推進室が29の地方公共団体を選定

寄与しているようです」と永島氏。納税者の利便性が向上することは、静岡市にとって納付期限内の税金収納率を高めることにつながる。双方にとってメリットの大きい仕組みといえるだろう。

また、こうした静岡市の事例に対するほかの地方公共団体の関心も高まっている。実際、住民の要望に応えるためクレジット収納を開始したいが、手間やコストがネックとなり実現できない地方公共団体が多い。いち早く課題を解決した同市の取り組みを視察し、参考にしたいとの申し出も、永島氏のもとには寄せられているそうだ。

「クレジット収納の仕組みは我々地方公共団体が独力で実現できるものではないため、指定代理納付者となるカード会社、サービス提供事業者であるベンダー、そして地方公共団体の三者が密に話し合い、契約などを取り交わして進める必要があります。これを適切に進めるには知識やノウハウが必要です」（永島氏）

導入作業を安心して進めていくためには経験豊富なベンダーからの支援が重要であろう。今後、静岡市は、住民サービスのさらなる向上に向けた取り組みを続けていく。

Application

モバイルレジ

モバイルレジ

スマホで撮影するだけ! いつでもどこでも納付できる

モバイルレジは、スマートフォンを使って「いつでも、どこからでも」公金を支払えるサービスだ。利用方法は簡単。まず、利用者は専用のスマートフォンアプリを起動し、モバイルレジ導入済みの地方公共団体から送られてきたコンビニ収納用の納付書に印字されたバーコードを撮影する。クレジットカードで支払う場合は、続く画面で「クレジットカード」を選択すれば、あとはカード番号などの入力を行うだけ納付を完了できる仕組みだ。

また、同アプリでは、全国の約1070行の金融機関が利用できる「インターネットバンキングでの支払い」や、ペーパーレスで「口座振替の申し込み」を行うことも可能（※）。モバイルレジを導入済みの地方公共団体は総じて増えしており、利便性の高い公金収納サービスとして注目されている。

※利用できるサービスは地方公共団体によって異なる

モバイルレジ <https://bc-pay.jp/>
右図のQRコードから
アプリのダウンロード
サイトにアクセスできます



お問い合わせ

株式会社 NTTデータ カード&ペイメント事業部 URL: <http://solution.cafis.jp/bc-pay/pc/>